
ひとりきり。

四季折々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとりきり。

【Nコード】

N6369A

【作者名】

四季折々

【あらすじ】

作者の私、四季折々の実話です。これは二年ほど前までの私で、今は全く違う性格をしておりますが、今の自分を書き表そうとしても、技量がありませんで、仕方なく数年前の自分とさせて頂きました。御一読の程、よろしくお願いいたします。

俺は仮病が得意だ。

演技がうまい訳じゃない。ただ、『吐いたから休む』と一言嘘を言えば、親は休ませてくれる。

そして仕事に行くんだ。

『ひとりきり』

無機質な造りの白を基調とした俺の部屋には、もちろん俺がひとりで横になっている。

今日も休んでみた。

だからといって扉の向こうの世界は、いつもと何ら変わらない。

俺が居ること以外はこの家もいつもと一緒に親は仕事へ行ったあと。

大きめの袈裟なため息すら壁に吸い込まれておわりだ。

何が嫌とか言うわけじゃないが、学校はなにかと面倒だ。

それに今日は木曜日で部活がない。

行きたくない要素はない。行きたい要素も無い日なのだ。

だから俺は木曜日に休む確率がかなり高い。

そして今日も、迎えた木曜日君を蹴り飛ばしてベッドに横たわる。

誰にも邪魔されない裕福な時間。

軽く不登校気味な俺を、だれも不登校と思わないのには多分、俺が生徒会役員で学校へ行けばムードメイカーの役割を担う学校の顔であるからだ。

休みがちな俺にみんなは疑いの目をかける事もなく、寧ろ心配してくるのだ。

これだから地位とムードメイカーの称号は守ってきた。

今日は活躍の見返りとして与えられた俺だけの休日だ。

学校の奴らはみんな、俺の作り出したお人好しの俺を、ホントの俺と勘違いしている。

いや、それが狙いなのだ。

俺はホントの自分のまわりに『お人好し』という高くて厚い壁をで、人との関わりを拒否してきた。

自分のテリトリーに他人を入れたことがなかった。

親すらも拒否してきたのだ。

自分で自分を騙し続けた。

外の世界の奴らとは、同じ時を生きる違った人間…。

自分で自分を隔離する。

それでいい。

普段は陽の当たらない『本当の自分』を現実世界で十分に深呼吸させると、俺は明日から始まる偽りの生活の事を考え、本当の自分を再び心にしまい込み、お人好しの自分と一緒に学校へ行く準備をした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6369a/>

ひとりきり。

2011年1月27日08時10分発行